

# 石巻専修大学

「石巻専修大学」ホームページ  
http://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

代表電話番号  
**0225 (22) 7711**  
広報専用FAX  
**0225 (22) 7809**

## 石巻川開き祭り

7月31日、8月1日に開催された「石巻川開き祭り」に延べ289人の学生、教職員が参加。若さあふれるパフォーマンスで夏を彩るイベントを盛り上げた。本学では昨年度から8月1日を地域貢献日に設定。学生と教職員からなる推進組織「地域貢献日活動プロジェクト」を設置し、5月中旬から参加者を募集した。

【7月31日】  
◇孫兵衛船競漕(学生24人)



▲ 華やかな踊りで祭りを彩った女子学生チーム(大漁踊り)

人112チーム/教職員19人(11チーム) 旧北上川河口を会場に大勢の観客の支援を受けて、一般孫兵衛船競漕にボランティアアサークル「ひだまり」と教職員の2チームが、ミニ孫兵衛船競漕に剣道部の女子部員たちが参戦し、熱戦を繰り広げた。

【8月1日】  
◇大漁踊り(学生37人、教職員11人11チーム) 地元出身の教職員や昨年参加した学生たちから指導を受け、振り付けや手拍子を練習。浴衣姿の本学チームが石巻市街を踊り進むと、沿道からは大きな拍手が送られた。



▲ 3位入賞に沸く体育会チーム(大縄引き大会)

2日には、前夜に行われた花火大会の花火くず拾いのボランティアに学生35人、教職員20人が参加した。学生会長の鈴木健二さん(経営3・宮城県クラーク記念国際高)は「昨年以上に多くの学生が参加し、猛暑の中、各出物で力を発揮してくれました。石巻地域の大学生と、川開き祭り以外でも地域を盛り上げる方法を考えていきたい」と話した。

▲ 日和山公園(石巻市)で

国際交流協定校である温州大学(中国浙江省)の夏期短期研修生10人が本学に來校した。同大学とは07年に国際交流協定を締結。10年かめ、日本語や音楽、東日交換留学生プログラムがスタートし、夏期短期

温州大学の受け入れは今年で5回目となる。研修は7月12日から20日までの日程で行われた。研修生たちは、坂田隆学長による講話をはじめ、日本語や音楽、東日交換留学生プログラムがスタートし、夏期短期

成果を発表  
共創研究センター  
石巻専修大学共創研究センター(中込真二共創研究センター長)の成果報告会が7月23日に開かれ、2014年度に実施された7つの研究プロジェクトの代表者が研究概要と成果を発表した。

開放講座が終了  
「オリンピック・パラリンピックを知ろう」を統一テーマに、6月から全7回にわたって開講されたみやぎ県民大学「石巻専修大学開放講座」が終了した。全講座の3分の2以上を受講した49人に、杉田博夫先生から修了証が手渡された。

活動に励んでいる。  
「石巻市における交通事情共有システムの開発」(代表 益満環)などの新たな取り組みも報告され、関心を集めた。同センターでは、共に「をキーワードに、大学と自治体や企業が連携した研究活動を行い、地域の課題解決を目指す。15年度は研究プロジェクト6件、社会還元事業1件、石巻専修大学と石巻市による地域連携事業2件が採択され、研究

温州大からも短期研修生10人  
国際交流協定校である温州大学(中国浙江省)の夏期短期研修生10人が本学に來校した。同大学とは07年に国際交流協定を締結。10年かめ、日本語や音楽、東日交換留学生プログラムがスタートし、夏期短期

成果を発表  
共創研究センター  
石巻専修大学共創研究センター(中込真二共創研究センター長)の成果報告会が7月23日に開かれ、2014年度に実施された7つの研究プロジェクトの代表者が研究概要と成果を発表した。

開放講座が終了  
「オリンピック・パラリンピックを知ろう」を統一テーマに、6月から全7回にわたって開講されたみやぎ県民大学「石巻専修大学開放講座」が終了した。全講座の3分の2以上を受講した49人に、杉田博夫先生から修了証が手渡された。

活動に励んでいる。  
「石巻市における交通事情共有システムの開発」(代表 益満環)などの新たな取り組みも報告され、関心を集めた。同センターでは、共に「をキーワードに、大学と自治体や企業が連携した研究活動を行い、地域の課題解決を目指す。15年度は研究プロジェクト6件、社会還元事業1件、石巻専修大学と石巻市による地域連携事業2件が採択され、研究

活動に励んでいる。  
「石巻市における交通事情共有システムの開発」(代表 益満環)などの新たな取り組みも報告され、関心を集めた。同センターでは、共に「をキーワードに、大学と自治体や企業が連携した研究活動を行い、地域の課題解決を目指す。15年度は研究プロジェクト6件、社会還元事業1件、石巻専修大学と石巻市による地域連携事業2件が採択され、研究

活動に励んでいる。  
「石巻市における交通事情共有システムの開発」(代表 益満環)などの新たな取り組みも報告され、関心を集めた。同センターでは、共に「をキーワードに、大学と自治体や企業が連携した研究活動を行い、地域の課題解決を目指す。15年度は研究プロジェクト6件、社会還元事業1件、石巻専修大学と石巻市による地域連携事業2件が採択され、研究

## ランドルフ・メーコン大学との交流事業

### 第1弾 研修生4人が来学



「テイラー・アンダーソン記念基金」の支援を受け、学生の相互派遣を柱としたランドルフ・メーコン大学(米国バージニア州)との交流事業が今年度からスタートした。第1弾として7月18日から24日まで、同大学の学生4人と指導教員が来学。東日本大震災に関する調査・研究と、9月に本学から派遣される学生らと交流を行った。

## 復興ボランティア学EXPO2015を開催



後半はインタビューやボランティアとしてNPOなどの活動にかかわっている学生4人によるパネルディスカッション。NPO法人代表者として参加したパネリストとして参加したボランティアアサークル「ひだまり」の宗像遼代表(人間2・福島県郡山高)は「私たちは地域の子どもたちに『居場所』を作る活動をしています。その思いや活動内容を伝えていってほしい」と話した。